

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470201072		
法人名	社会福祉法人 豊心会		
事業所名	和幸苑グループホーム望み		
所在地	大分県別府市亀川東町20番14号		
自己評価作成日	平成21年10月1日	評価結果市町村受理日	平成22年2月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://ap.oita-kaigo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4470201072&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成21年11月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

三食職員の手作りで食事を提供しています。苑庭の野菜畑でその日に使うトマトやきゅうりの収穫しに行ったり、洋服や、ちょっとした買い物と一緒に出かけたりしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・アセスメントシートは「認知症の人のためのケアマネジメントセンター方式」を使用し、きめ細かな情報をもとに、実践しやすい介護計画書を作成している。利用者担当が、毎月、モニタリングをし、情報を共有している。見直しの介護計画書により、排泄の自立が図れた利用者が多い。
- ・食事は事業所内でそれぞれのユニットごとに、利用者の意見をもとに三食手づくりである。時には、利用者と一緒に好み焼きや餃子、クレープ、クッキーなど楽しみながら作っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念のもと職員が意識を高め、地域の方々との関係性を大切にしている	地域とのつながりを重視した理念をスタッフ間で作り上げ、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2ヶ月に1度地域の美容室の方に訪問していただき散髪してもらっている。近くのスーパーに利用者と一緒に行き買い物したりする	地域の一員として地域行事に多く参加している。また近くのスーパーに買い物にいたり、2ヶ月に1度美容室の訪問などがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	できていない。ホームページ等を制作し、認知症の方のことを理解できるよう働きかけていきたい		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度利用者家族、民生委員、自治会長、地域包括支援センター職員と共に運営推進会議を行い、サービス向上に努めている	2ヶ月に1度運営推進会議を開催しており、特に家族の参加が多く(4人)、他にも幅広い立場の人々の参加がある。内容は、制度の変化のことや取り組み状況の報告などがあり、記録も詳細である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の職員と、民生委員さんの見学や、推進会議の報告を行っている。	市の職員と民生委員が見学に訪れている。その際、運営推進会議の報告を行っている。運営推進会議への市側の参加を積極的に働きかけている。市側も運営推進会議の参加など、積極的に事業所と関わるよう期待したい。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	見守りが出来ない時は、玄関の内扉の施錠をすることもありますが、見守りが出来る間はしないよう職員で意識している	高齢者の権利擁護について話し合い、身体拘束に対し、正しい理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループホーム協議会などの研修会に、職員は参加し勉強している		

事業者名:和幸苑グループホーム 望み

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	グループホーム協議会などの研修会に、職員は参加し勉強している。後見制度を利用している方もいるため、必要な時は支援できるようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約の説明や重要事項説明を1つずつ行い、利用者や家族等の不安や疑問点に答えられるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1度運営推進会議以外にも、年に2回家族会を設け家族同士の集まりが出来る様になっている。また、面会時など状況報告を行い家族の要望などないか聞くように努めている	運営推進会議や年に2回家族会(90%の参加)を開き、その際に意見や要望を聞き、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要時、グループホーム会議を開き、職員の意見を聞ける機会を設けている	ミーティング時や必要時、意見を出し合い、改善につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、やりがいや向上心をもっている職員に対し、資格取得の為の奨励を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得の研修や、試験などを受けれるようにしている。また、グループホームの研修会の参加の奨励を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1度グループホーム協議会の研修を通して他のグループホームの職員との交流が図れるようになっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前の面接で、本人と話し合いや顔馴染みになる機会を持ち、家族だけでなく本人の話聞くようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み時から、家族の話聞き出来るだけ家族の求めるものを理解するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思い状況など相談しながら信頼関係を築きながらサービスにつなげるようにしている。早急な対応が必要なときは、地域包括支援センターの紹介も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いや、根本にある心の中を知るよう努めている。お互い協働しながら、和やかに生活出来るよう、場面作りや、声かけを行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子や職員の思いを伝えることで、本人を支える協働関係を築いている。家族の思いに寄り添い、家族と同じような思いで支援している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	状況を見極めながら家族と一緒に過ごすことを勧めたり、良い関係の継続に努めている	利用者の意向に沿い、馴染みの人や場所に定期的に訪れ、関係が途切れないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	心身の状態や気分が日々時々変化しているので、注意深く見守り利用者同士の関係が上手くいくよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用修了者は、入院先での死亡が多く継続的な関わりは持っていない		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、把握に努めている。言葉や表情などからその意思を推し測ったり、それとなく確認するようにしている。意思確認が困難な方は家族などから情報を得るようにしている	毎月1回請求書に、一人ひとりの暮らしぶりの報告を同封し、家族の希望や意向を確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時に自宅を訪問したり、本人や家族から聞き取るようにしている。利用者様にも折に触れ家族や知人等と、どのように生活していたかを聞くように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人一人の生活リズムを知り、行動などから本人の全体像を把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントを含め、職員全員で意見交換などを行っている。利用者様が自分らしく暮らせるよう、本人や家族の要望を介護計画に活かしている	アセスメントは「認知症の人のためのケアマネジメントセンター方式」を使用し、情報をもとに実践しやすい介護計画書を作成している。モニタリングしやすい内容で、見直し後の計画書も明確である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	水分量、排泄等身体状況、日々の暮らしの様子、本人の言葉などを記録している。また、いつでも職員が確認出来る様にし、情報の共有を行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて通院や送迎など、必要な支援を柔軟に行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の商店や消防署等と連携している。保育園の慰問や学生の受け入れも行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望するかかりつけ医に受診している。家族の意向により、職員が受診に付き添うことが多い	かかりつけ医の訪問があり、時には専門医の受診を勧めることもある。紹介状を持参し、検査をすることもある。医療機関との連携は、密に取れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日バイタル測定し、記録に残している。変化や、緊急時はかかりつけ医や、看護師、隣接する小規模の看護師に相談連携を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、病院Drと相談し出来るだけ早期退院できるよう情報交換を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	推進会議や家族会で、重度化や終末期の話を合いを行っている。状態変化を家族に連絡し支援につなげているが、確認書などは交わしていない	重度化や終末期については早い段階で話し合いが行われており、契約書の中でも重度化した場合について確認書を交わしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変時や事故発生時はマニュアルを作り対応している。また、かかりつけ医にすぐに相談できるよう関係を築いている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防災訓練を行い、避難体制の見直しを行っている。また、地域の消防署との連携をとっている	防災訓練は年2回、地域の消防署と連携を持ちながら行っている。また、備蓄に対しては昨年の評価結果をもとに、置き場所を事業所外に設置している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを損ねないよう声かけや対応に配慮するよう努めている	利用者一人ひとりに対してプライドを大切にし、プライバシーを損ねないように対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で、ご本人に合わせ職員側の押し付けが無いよう努めている。また、自分で決める場面を作るようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様によって出来ること、出来ない事がある為、一人一人のペースに合わせて過ごせるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出するときは、おしゃれな服に着替えたり、薄化粧したりできる支援を行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皆さんと一緒に手作りクッキングを1ヶ月に1度は行っている	食事は利用者の希望に沿って、それぞれのユニットごとに三食作っている。時には利用者が、お好み焼き、ギョーザ、クレープ、クッキー作りなど手伝っている。食後の後片付けは、利用者が食器を拭くなど出番があり、生き生きとしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の病状や状態に応じて食事を提供している。水分補給も、お茶だけでなく紅茶やコーヒー等でも行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きの声かけを行い、利用者様に合わせて職員が見守りや介助を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をつけ、時間を把握し定期的にはトイレ誘導介助を行い、排泄を促している。また、日中布パンツで対応している方もいる	介護計画書に沿い、2人オムツをはずすことができている。トイレへの誘導もパターンに沿い、促している。出来るだけ布パンツで対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操、歩行訓練などに取り組んでいる。食材を工夫し水分補給なども積極的に行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の体調に合わせて、2日に1回の入浴やシャワー浴を行っている	平均2日に1度、入浴している。気の合う入居者同士で入浴する人が多い。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し生活リズムが整えられるよう援助している。また、体調や表情、希望などに配慮し、ゆっくり休息が取れるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルの作成などを行い、職員が薬の内容を把握できるようにしている。服薬は1回ずつ手渡し、服用の確認を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の力を発揮してもらえるよう、食器のかたづけや、掃除など手伝っていただくことがある。外出などは、利用者様と話をしながら行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気、本人の気分や希望などに応じて買い物やドライブ等に出かけている	その日の天候により、近隣への散歩やドライブ、買い物など、多くの外出支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお金を預かり、事業所管理をしている。外出時、日用品の購入などはお金を渡し払えるよう、支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	他者に聞こえないところに電話を設置しているが電話を使う利用者様はいない。本人の声を毎月家族にあてる手紙に入れられるよう努めている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様一人一人が安全かつ、わかりやすいよう場所の工夫を行っている。	共用空間は広々として、開放的である。台所から全利用者のくつろいでいる姿が確認できるようになっている。ソファーやコタツなど語らう場がある。時には横になれるようにベットも設けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やベランダ(テラス)には、椅子やテーブルを用意し仲の良い利用者様同士でくつろげるスペースを設けている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの利用者の好みの色彩や物などを取り入れ居心地の良い空間を提供している	利用者一人ひとりの生活歴を大切にした部屋作りがされている。たとえば信仰深い方には大きな仏壇、思い出深い写真、趣味の作品などが置いてある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の状態に合わせて、手摺などを見直ししている。安全確保と自立への配慮を行っている		